

日本における産業用ロボットの稼働台数 43 万 5000 台、記録更新

フランクフルト発、2024年9月24日—調査レポート『World Robotics』によれば、産業用ロボットの稼働台数は**43万5,299台**で、**5%の伸び**となった。**2023年（暦年）**の日本における年間設置台数は**4万6,106台**で、前年比**9%減**ながら、世界最大の産業用ロボット市場である中国に次いで**世界第2位**の地位を維持している。

「日本は世界で最もロボット導入が進んだ国の一つ」と、国際ロボット連盟（IFR）のマリーナ・ビル会長はいう。そして、「2018年から2023年にかけてのロボット稼働台数は**6%**という年平均成長率（CAGR）を記録し、**世界第2位**となっている」と述べる。

ロボットの輸出

日本は世界のロボット生産の**38%**を担う世界有数のロボット製造国である。2023年、日本の輸出台数は**16万801台**に達したが、2022年の過去最高記録**20万7,737台**から**23%の減少**となった。2023年の輸出率は**78%**で、**72%~81%**の通常の範囲内にある。

納入先の産業分野

2023年、**電気・電子産業**のロボット需要は**1万4,692台**に達した。新規設置には**2年ごとの周期**がある。2022年は循環的上昇の年に相当したが、それに続く2023年は**20%減**となった。ロボットの設置台数が最も多いのも、この分野である。**4%増**の**14万3,768台**という設置台数は、2023年の日本全体における稼働台数の**33%**に相当する。

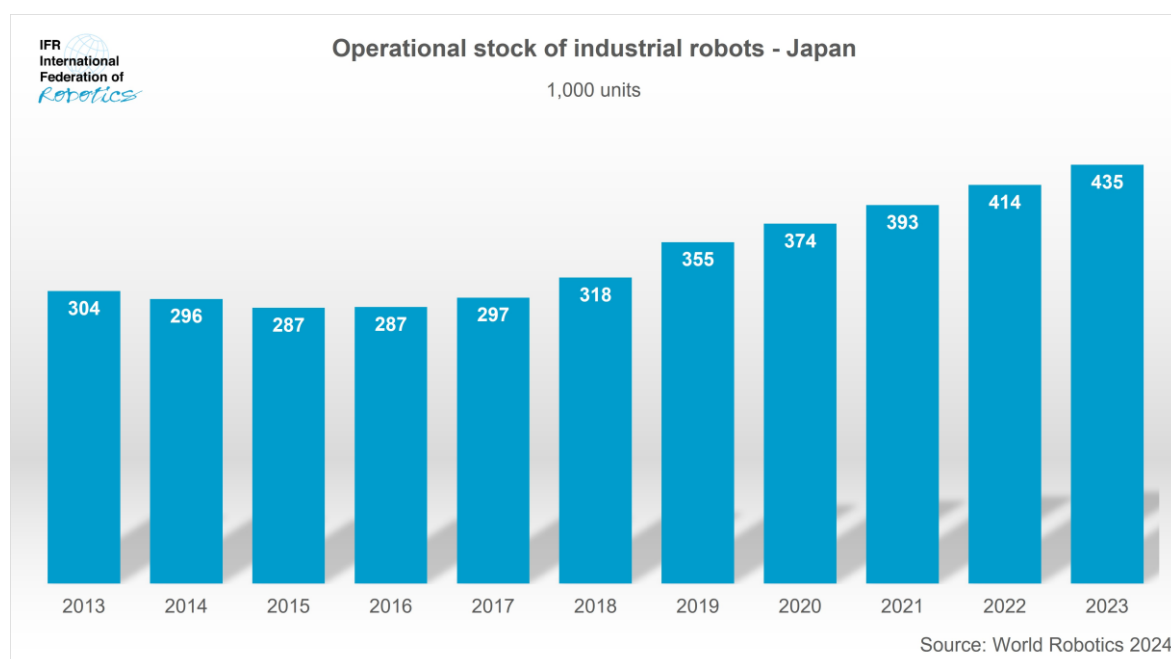
2023年、**自動車産業**における新規設置台数は前年比**7%減**の**1万1,881台**となった。これは日本での総設置台数の**26%**に相当する。自動車産業における**稼働台数**は、**2018年以降**、年平均**6%**で増加してきたが、2023年には**3%増**の**13万2,766台**に達した。これは、総稼働台数の**30%**に相当する。

一般の産業分野としては**金属・機械製造業**が最大の納入先であり、2023年には**4%減**ながら**7,854台**の新規設置があり、日本における総設置台数の**17%**に相当する数字を記録した。**稼働台数**は**10%増**の**6万4,915台**で、**3番目の規模**を誇っている。これは2023年における日本全体の稼働台数の**15%**に相当し、同分野での**2018年以降**の年平均成長率は**11%**に及ぶ。

今後の展望

OECD では、日本の GDP 成長率として 2024 年は 0.5%、2025 年は 1.1%を予想している。日本の自動車産業では、代替パワートレインに切り替えるために再編が進行中である。ほとんどの自動車メーカーでは、二次電池式電気自動車や FCV（燃料電池車）のポートフォリオの拡大を意図している。さらに、日本の自動車メーカーは、水素エンジン（水素を燃料とする内燃機関）を開発中である。このような製品ポートフォリオの多様化に伴い、それに対応する生産技術が求められている。

2024 年のロボット需要は横ばいになり、2025 年以降は一桁台半ばから後半のパーセント割合で回復すると予想されている。長い目で見れば、高齢少子化に伴い、日本の数多くの経済分野でオートメーション技術の導入が必要になるため、長期的には非常に明るい展望が開けている。



世界の産業ロボットとサービスロボットに関するレポート「World Robotics 2024」のご注文は、こちらのサイトから。

<https://ifr.org/>

IFR について

国際ロボット連盟（IFR）は世界のロボット産業に関する情報を発信しており、世界 20 カ国以上のロボット協会（全国組織）、学術団体、産業用ロボット・サービスロボットの製造業界を代表しています。 www.ifr.org

IFR をフォロー： LinkedIn, YouTube

報道関係者向けお問い合わせ窓口：

国際ロボット連盟

プレスオフィサー

Carsten Heer

電話： +49 (0) 40 822 44 284, E-Mail： press@ifr.org